

2024 年度第 4 回理事会 議事録

一般社団法人 日本損害保険代理業協会

日 時：2024 年 9 月 12 日(木) 13:00 ~17:07

会 場：日本代協会議室

出席者：全理事数 17 名、出席理事数 17 名、出席監事数 2 名（津田監事 小島監事）
小田島会長 小俣副会長 中島副会長 山中副会長
佐々木理事 雨宮理事 石川理事 小橋理事 三好理事 郡理事 松本理事
雨宮(新)理事 藤山理事 植村理事 大和理事 金澤専務 坂常務
(Web 参加：事務局)

会長 小田島 綾子氏は、議長席につき、出席理事数の確認を行い、本理事会は定款第 33 条に基づき、有効に成立した旨を報告して開会を宣し、直ちに議事に入った。

<会長挨拶>

皆さん、こんにちは。2ヶ月ぶり元気にお顔合わせ会議ができ有難く思います。多くの行事や会議が開催されている時期であり、大変お疲れ様でございます。

この間に宮崎での地震発生後、南海トラフ地震臨時情報の発信や、降雨量が非常に多い台風が数日間停滞し、被害拡大する等、今までにないような天候の予測の困難さ、夏休みの繁忙期、地域経済へのダメージがあったことを心配していました。

また一方で、新聞誌面には保険会社の情報漏洩、情報流用の報道がありました。250 万件という数字や書かれている状況を見るとお客様視点は全く無いと感じました。このように書かれることは私たちのような代理店にとっては大変迷惑な話であり、私たちは自社の描くお客様サービスの理想にむかって、自立、自律して進んでまいりましょう。

さて、7月末に保険会社4社と、2時間ずつのディスカッションを行い、昨日その議事録を配信いたしました。今回は事前に、全国から質問や意見を寄せていただきました、ありがとうございました。開催方法については、より深堀が出来るような工夫を重ねており、今後も変化、改善してまいります。

世の中のサービスを見回すと、顧客視点で考えるといいですが、私たちの仕事は、お客様の安心と安全、万一のとき、起きたら困る、どちらかというと考えたくない、視線の先のことを扱うことが多いと思います。だからこそ、アップデートの必要性、リスクマネジメントを学び、新たなリスクを知り、伝える手法を追求、実践し、お客様から絶対的に支持される会社を目指す。代協の仲間と共に学ぶ文化を大切にしていきたいとあらためて考えています。

<前回理事会以降の業務報告>

- 8月26日 広報全国ミーティング
- 8月27日 正副オンライン会議
- 9月4日 CSR全国ミーティング
東洋経済インタビュー
- 9月6日 組織全国ミーティング
- 9月9日 企画環境全国ミーティング

■審議事項

1. 2024 年度「功労者表彰」の選定

選考会議議長を務めた小俣副会長より、資料に基づいて、表彰者の選考結果が報告され、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・ 2024 年度表彰者（ブロック順 敬称略）は以下のとおりである。
 薊 仁（群馬） 二十二 修（栃木） 宇都宮 時彦（東京） 秋山 正勝（東京）
 中島 治彦（三重） 木下 政一（福井） 辻本 完治（京都） 中村 利雄（和歌山）
 稲澤 真一（愛媛） 泉 健彦（長崎）
- ・ 代表者挨拶は九州北ブロック長崎県代協 泉 健彦氏にお願いする。

【説明・意見】

- ・ 推薦申請通り、各候補者とも表彰基準を充たし、代協活動において申し分のない功績を残されていることを確認した。
- ・ 候補者推薦に当たっては、地域担当理事に事前協議から関わっていただいた。
- ・ 表彰基準として提示している日本代協役員の期数、年数や各代協役員の期数、年数などの在職年数は推薦の前提条件であり、具体的な実績に対する貢献内容を表彰するものであることを改めて共有し、事前協議からすり合わせを行う必要がある。
- ・ ブロック内における選考過程を検証し、表彰施行規則の理解と書類のチェック体制等を徹底し、次年度の候補者選定に向けての早期始動をお願いしたい。
- ・ 推薦資料は期限内に提出されたが、記載内容が曖昧あるいは不十分なものがあつたので、ブロック推薦における精度を高めるようお願いしたい。

審 1_2024 年度表彰候補者一覧 表彰者選考結果（別冊 席上配付資料）

2. 2024 年度コンサルティングコース受講者募集のブロック別目標数

資料に基づき、教育委員長より説明を行い、審議・採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・ 事業計画の通り、日本代協自主目標総数 840 名をブロック別に振り分ける。
- ・ 代協別の目標数は、各ブロック内で協議のうえ確定いただく。

〔理事会資料〕 審 2_2024 年度コンサルティングコース受講者募集目標数

3. 委員会委員の変更について

事務局より、CSR 委員会委員の交代について報告があり、審議採決の結果、全会一致で承認された。

【決定したこと】

- ・九州南ブロック選出のCSR委員を宮崎県代協 清 俊文氏に交代する。

■報告事項

1. 事業計画進捗状況

地域担当理事から各担当地域における状況、意見について報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・金融審議会のWGについて議論した。代理店評価は保険会社による評価が主であり、まだまだ規模ウエイトも高いと感じている。保険業務のデジタル化が進む中でも、お客様の中には「顔の見える、人が介在する対応」を求める方もいらっしゃる。そのためにも我々の存在感を示したい。それを踏まえて代理店の評価にお客様から見た評価ポイントなどが反映できないかなどの意見があった。
- ・支部単位の動きとして、退会する会員に対して紹介一店を依頼する活動がある。プラスマイナスゼロ運動を意識した取組として注視したい。
- ・現況下で保険会社社員が集まりにくいとの話はあるが、現場単位では保険会社とは協働している。様々な問題がある時こそ、可能な限り接点を持つておくべきであると感じている。
- ・会員増強については、斬新な展開策はなく、保険会社の協力あるいは損保協会との交流、提携を深めることで未加入代理店の紹介をもらうことが一番ではないのかとの意見がある。
- ・今こそ代理店の存在感を示し、期待される代理店としての役割を果たすべきであるとの意見が会員から多く出ている。
- ・新任の地域担当として各ブロック協議会を拝見する中で、いずれも積極的な運営を行っていると感じている。
- ・女性会長は若手女性の掘り起こしに熱心であり、そのメンバーと共に華やかで気遣いのある姿勢を示している点に好感を抱いた。
- ・高い組織率であっても協議会や理事会に参加するメンバーが同一であり、支部活動が不活性となつて理事メンバーが固定される傾向にある。
- ・三冠王が整理された中で、代協が継続して打ち出している推進項目の意義がわからないとの意見があるが、施策の腹落ちをしっかりとやる時期と認識している。
- ・三冠王が整理されたことにより、委員会横断での合同取組が顕著となっている。
- ・前地域担当の流れを踏襲し各代協事務局の職員の皆さんとの接点強化を継続していく。→各代協と事務局職員間でのコミュニケーションが鍵となるのではないかと。
- ・11支部から6支部に支部再編を行い、会費改定を実施したことの影響として支部間格差が拡大している。役員全体でのフォローが必要であると考えている。
- ・出前授業の案内を岩手県内の高等学校77校に案内している。
- ・宮城代協ジギョケイ推進プロジェクトチームが立ち上がった。
- ・群馬代協の中に防災士会を設立している。防災資格を持つ5名の会員が定期的に集まり防災ボランティアとの情報交換などを実施している。市町村との防災訓練、防災活動に積極参加している。
- ・会費改定の影響で23会員が退会したが会費総額は600万円増加したので、事務局の改革を進めている。専任事務局長の設置、事務局と役員の役割をより明確にして展開する。
- ・会員増強を重視する中で退会防止にフォーカスし退会の予兆が見えた段階で素早く対処することを共有している。
- ・新任会長の行動事例として他代協会長との接点強化を意識した取組がある。
- ・ある理事研修会に参加すると全てのカリキュラムが組み上げられ、骨太な内容となつていた。様々な経験のある会長が自ら講師をつとめるなど運営面での参考になった。この活性の原点には、若手の理事の存在があり、会長自らが引き上げを行っている。現場からの推薦も重要だが、引き上げて育成するというのではないかと。

別冊：地域別・委員会別資料

2. 前回理事会(7/12)以降の主な業務報告

(1) 定期報告

①仲間づくり推進

藤山組織委員長より資料に基づき説明があり、共有された。

【主な内容】

- ・6代協が目標達成(前年度4代協)となり、速報ベースでも伸展が確認されている。
 - ・退会235店の中で(退会理由5-9)は31%である。
 - ・退会5-9対策と支部活動の充実は継続課題である
- 追加報 2-1_ 仲間づくり推進(正会員増強運動)目標達成状況表(7月末)

②損害保険大学課程各コースの認定状況等

両宮教育委員長より資料に基づき説明があり、共有された。

【主な内容】

- ・カード型認定証発行の働きかけをお願いする。
- 追加報 2-2_ 損害保険大学課程各コースの認定状況等について(7月末)

③日本代協アカデミー

両宮教育委員長より資料に基づき説明があり、共有された。

【主な内容】

- ・教育委員会アカデミー推進PTにおいて、現状よりもわかりやすい資料を準備している。推進方法の説明しやすさを重視している。
- 追加報 2-3_ アカデミー都道府県別集計データ(7月末)

委員会発表の流れから、全国一斉ミーティングを実施した企画環境、組織、CSR、広報の各委員長に説明を求め、各委員長からタイムリーな内容説明があり、共有された。担当副会長から、各委員会が諮問事項の最終ゴールに向けてどのように進めるかに着目して下期の委員会活動を推進するよう助言があった。

(2) 活力研実施概要

7月30日および31日に開催された活力研について、報告があり共有された。

- ・活力研に先立ち多くの意見を頂戴したことについて、9月13日の会長懇談会の席上で御礼を申し上げる。真摯なご意見を多数いただいた。
- ・活力研に参加した副会長、企画環境委員長から報告を行った。
- ・上記メンバーから同内容を会長懇談会で披露する。
- ・議事録は4社個別に作成した。

ポイントは解説動画(約11分)を、詳細は議事録を参照いただきたい。

【参考資料】

解説動画 → <https://vimeo.com/998994581> PW:daikyo

議事録 → 日本代協代協 HP 会員専用書庫に搭載済

(3) 代理店賠償更新状況について

藤山組織委員長より口頭報告があり、共有された。

【主な内容】

- ・9月7日入金ベースでは82%の継続率で前年同様の進捗となっている。
- ・代理店賠償自体の説明やトータルプランナーの説明を求める質問がある。
- ・10月理事会で最終報告を行う。

(4) 魅力研について

小俣副会長より資料に基づき説明があり、共有された。

【主な内容】

- ・メンバー7名で10月に第1回目を開催する。
- 小俣副会長、佐々木理事、三好理事、大和理事、両宮(新)理事、金澤専務、坂常務

- ・オンライン開催とし議事録、理事会報告とする。状況に応じメンバー変更を可能とする。
 - ・メンバーは将来を見越し選定したものである。経験や経歴に拘らず次に任せる時期にきているので、若手を登用した。
 - ・10年20年前に評価できる物事は多く存在し、今も大切にすることは必要である。あわせて求めるものは「変化とアップデート」であるとの意見があった。
 - ・今ある魅力と共に新たな魅力を生み出していくべきであるとの意見があった。
- 報 2-4 魅力研骨子

(5) JCMキャンペーン案

事務局よりJCM社より提案のあった企画内容の説明を行い、展開について共有した。

【主な内容】

- ・創業40周年記念キャンペーンを10月から12月まで実施すること。
- ・9月13日の会長懇談会で説明を行うこと。

報 2-5_JCM キャンペーン 2024 のご案内

(6) 「現状と課題」の発送について

事務局より資料に基づき説明があり、今後の方向性について共有された。

【主な内容】

- ・2024年度版は9月14日に発送する。デジタルブック等は先行提供する。
- ・2025年度以降の発送についての意見交換を行った。
- ・信書問題、郵送コストの増加、環境問題などが複合的に絡んでいる。
- ・今後の懇談会等で各会長の皆さまからもご意見をいただくことも検討する。

報 2-6①_現状と課題発刊方法について

報 2-6②_別紙 1_各代協配布数

報 2-6③_別紙 2_2021年9月アンケート結果

3. その他

(1) 2025年度事業計画に対する提言提出依頼

事務局から資料に基づき説明を行い共有された。

【主な内容】

- ・10月31日を期限として提出いただくこと。

報 3_ 2025年度 事業計画に対する提言ご提出のお願い

(2) 「代理店経営未来塾」第4期受講申し込みのご案内

事務局から資料に基づき説明があり、共有された。

報 3-2①_代理店経営未来塾開講・受講申し込み案内 (20240820)

報 3-2②_代理店経営未来塾第4期

(3) 業界関連情報について

事務局より定期提供している情報について説明があり共有された。

- ・保険会社のニュースリリースについて、要約掲載をせず提供すること。
- ・件名と URL 提供にとどめることとする。

■ 監事講評

津田監事より以下のとおり監事講評があった。

今日は本当に皆さんお疲れ様でございます。審議項目について申し上げます。功労者表彰選定は選定委員会を経ての審議ではあるものの参加されている理事の皆さまから質問がなかった。もっと質問があってもよいのではないかと感じた。選定項目の一つである国民年金基金については、終了した事業であるものの過去の功績として評価することは重要である。一方若い方から見ると理解されにくい時代になっているのではないだろうか。地域担当理事の皆さんにしても基金活動の内容をご存知ない方もいらっしゃるので、打ち出しの仕方を再考いただいても良い時期ではないかと思う。二番目の審議項目であるコンサルティングコース受講者募集は、一連の業界問題を経て教育と資格の再構築が議論されている中でもあり、従来 of 活動実績から見てもさらに果敢なチャレンジを行って良いのではないかと感じた。

本日もっとも印象深かった点は、代理店は「お客さまから評価されている」ことである。ともすれば保険会社が云々、ポイントが云々という議論になりがちだが、従前から損保協会にも話をしてきたことである。真剣に地域貢献活動を行ってきた代理店は、30年の歴史があるなら30年分の貢献を行ってきているのであり、そういった点もきちんと評価されるようになってもらいたい。明日の会長懇談会は、全国の会長に真意が伝わるようお願いしたい。

以上

以上をもって、議長は理事会の終了を宣し、午後5時07分閉会した。
終始異状なく議案の審議を終了した。
上記理事会議事録を作成し、議長並びに議事録署名人が記名押印する。

2024年9月12日

議 長 会 長 小 田 島 綾 子 印

議事録署名人 監 事 津 田 文 雄 印

議事録署名人 監 事 小 島 俊 宏 印

議事録作成者 坂 雅夫

本書は、2024年9月12日に開催された一般社団法人 日本損害保険代理業協会の2024年度
第4回理事会の議事録に相違ないことを証す。

2024年9月12日

一般社団法人 日本損害保険代理業協会
会長（理事） 小 田 島 綾 子